

派遣先所属 福島県次世代産業課
氏 名 澤田 享子（さわだ きょうこ）
派遣期間 令和7年4月1日～令和8年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

次世代産業課では、主に再生可能エネルギー・水素関連産業及びロボット・航空宇宙関連産業の集積及び産業振興を行っています。震災により産業基盤が破壊された浜通り地域の復興を目指す国家プロジェクトである、福島イノベーション・コースト構想に基づいて新たな産業基盤の構築を目指しています。

私は水素関連産業担当に所属し、水素関連の研究開発を行う企業・研究機関・大学への補助金の交付、水素を活用する機器の導入補助、水素分野への新規参入を目指す企業への支援等を実施しています。担当は管理職以下7名体制で、自治法派遣職員は私の他に東京都からの派遣職員が1名います。

私自身は企業及び郡山市にある（国研）産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所（以下：FREA）が実施する水素やカーボンニュートラルに関する研究開発補助金の業務を担当しています。基本的には受付→審査→交付決定→補助金額の確定といった一連の業務になりますが、補助金の種類を4つ担当していることもあり、補助金の種類ごとに若干の進め方の違いがあるため、それぞれの交付要綱やマニュアル等を確認しながら進めていく必要があります。特に FREA に交付している補助金に関しては、交付金額が大きいことに加え、予定していた事業期間内に終了させることが難しいということが判明したため、予算の繰越に向けた対応なども行うなど、当初想定していなかった対応もありましたが、事業者や関係者と協力しながら進めています。

補助金業務以外には、県内高校生に、当課が主催する、ふくしま再生可能エネルギー産業フェア（以下：REIF ふくしま）や FREA に見学に来てもらうという事業を担当しています。本事業は、福島県の将来を担う高校生に対して、県が力を入れている再生可能エネルギーや水素という分野に興味を持ってもらう機会を提供するという目的で実施しており、REIF ふくしまの中では、県内の再エネ・水素関連企業の取り組みを高校生に知ってもらうことを目的に、企業にプレゼンテーションをしてもらうことも行っています。見学実施までには、県立学校を所管する教育庁や各学校、課内の REIF ふくしまの担当や FREA の担当者等との調整を行っていく必要があり大変な面もありますが、今年度は延べ662 人の高校生に参加してもらうことができました。



REIF ふくしまにおける高校生向け
企業プレゼンの様子

2 被災地の復旧・復興の状況

私が居住している福島市、出張で訪れる機会の多い郡山市等では、ほとんど震災の爪痕を感じることはありません。あえて言うとしたら、緑地等に放射線量の測定結果が掲示されている程度です。しかし、派遣職員を対象とした被災地視察において、帰還困難区域を現在も有する市町村を訪れましたが、避難指示解除後に整備された新しい店舗等がある一方、整備された地区を通り過ぎると国道沿いであっても、震災当日のまま残された店舗が多く残されていたり、雑草が長く伸びていたり、10年以上人の手が入らないとどうなるのかという現実を突きつけられました。

被災地視察の後、私生活で同じ東日本大震災の被災地である宮城県気仙沼市を訪れる機会がありましたが、帰還困難区域に指定されていた浜通り地域の復興状況とは大きく異なるということも目の当たりにして、原発事故という特異性、震災・原発事故から14年という期間の長さを感じました。

一方で、新たな産業団地の整備や、新たな工場や店舗の立地、教育機関や医療機関の整備等復興への歩みも進めています。被災地視察で見学した大熊町の「学び舎ゆめの森」に関しては、子どもの未来を切り開く力を養うための教育を実施しているということもあり、町外から移住してきて入学（転校）する子供もいると聞きました。避難した住民の帰還を進めるだけでなく、魅力的なまちづくりを通じて新たな住民に来てもらおうとする被災地の姿を見て、これからも復興は前に進んでいくと感じました。



震災遺構 浪江町立請戸小学校

被災当時の教室がそのまま残されています。

3 被災地へ派遣となって感じたこと

私自身、父親の仕事の都合で出生～小学校入学前の約6年間を福島県須賀川市で過ごしました。父親の仕事の都合の赴任でしたので、親戚等が居住しているわけではありませんが、埼玉県に引越した後も、福島県は身近に感じる場所でした。そのため、被災地派遣として、福島県に派遣になったということにより身近になったと感じていますし、縁も感じています。

私生活では休日を利用して県内を巡っています。近隣の中通りや会津を中心に名所等を訪れました。赴任当初が桜の季節でしたが、県域も広く、浜通り・中通り・会津と気候も違うため、桜は様々な場所で4月下旬ごろまで楽しむことができました。また、私が居住している福島市内は飯坂・土湯・高湯と3つの温泉地があり、車で2～30分程度で行けるほど温泉がとても身近です。私自身も日帰り入浴によく行っています。派遣期間も半年が過ぎ、残り期間も少なくなってきましたが、面積が大きく、浜通り側を中心にまだ回れていないところが多いので、今後も休日を活

用して県内の様々な場所を巡るとともに、まだまだ気づいていない魅力を発見する機会になれば
と思っています。



三春の滝桜（三春町）



三ノ倉高原のひまわり畑（喜多方市）



大内宿（下郷町）



須賀川牡丹園（須賀川市）